5. ネグレクト

ネグレクトの定義については、「児童虐待の防止等に関する法律」第二条三号に「児童の心身の正常な発達を妨げるような著しい減食又は長時間の放置、保護者以外の同居人による前二号（身体的虐待）又は次号（心理的虐待）に掲げる行為と同様の行為の放置その他の保護者としての監護を著しく怠ること」と記載されている。これがネグレクトに当たる。すなわち、子どもの心身の正常な発達に必要なケアを与えないことである。

1. ネグレクトとは

以下の1)～6)の様な類型がある。重篤なネグレクトは、しばしば致命的になり得る。乳児の放置、飢餓、溺水、火災、車中放置等である。祖父母、きょうだい、保護者の恋人などの同居人が以下に掲げる行為を行っているにもかかわらず、それを放置する場合も同様である。

1) 栄養・衣服・衛生ネグレクト（衣食住の身体的ケアを与えない）

食事、衣服、住居などが極端に不適切で、健康状態を損なうほどの無関心・怠慢などをいう。例えば、適切な食事を与えない、気候・天候に適した衣服を着せない、入浴させない、オムツを替えない、極端に不潔な環境の中で生活をさせるなどである。

2) 愛情剥奪症候群、情緒ネグレクト（発達に必須な情緒的ケアを与えない）

子どもにとって必要な情緒的欲求に応えていない場合では、精神的危険が高いのみならず、栄養が与えられていても低身長や体重増加不良などの成長障害が見られることが知られている。

3) 監督ネグレクト（子どもの安全を守るために必要な監視を怠る）

子どもにとって危険な状態に置かれること。熱傷の危険がある状態を放置、誤嚥事故が発生しやすい環境を放置、乳幼児を家に残したまま度々外出する、乳幼児を車の中に放置するなどである。親がパチンコに熱中している間、乳幼児を自動車内に放置し、熱中症で子どもが死亡したり、誘拐されたり、乳幼児だけを家に残して火災で子どもが焼死したりする事件も、ネグレクトの結果であることに留意すべきである。

4) 医療ネグレクト（必要な乳児健診、予防接種や医療を受けさせない）→5-1 医療ネグレクト参照

5) 教育ネグレクト（必要な教育を受けさせない）

保育園・幼稚園、学校に行かせない。家に閉じこめる（子どもの意思に反して学校等に登校させない）などである。

6) 遺棄・殺人（捨て子、心中の道連れ、保険金殺人）

子どもを遺棄する、殺害する場合である。

2. ネグレクトを疑うべき所見

栄養不良・成長障害（体重増加不良／減少、小柄）、発達遅滞、食行動異常（むさぼり食い／過食／拒食）など。保健師、看護師、かかりつけ医、健康診断医による身長・体重増加曲線の確認はとても重要であり、怠らないようにして欲しい。保育園、幼稚園、小学校などでも同様である。不衛生、不適当な衣服（異臭）、ひどいオムツかぶれ、無気力、病院への受診の遅れ、慢性疾患の放置、不完全な治療など。学童期以降では、家に帰りたがらない、

窃盗、多動、乱暴、注意を引く行動、遺尿 / 遺糞等が重要である。

3. ネグレクトを行った者へのアプローチ

子ども虐待は家族内機能不全の結果として起こってくる。虐待者もまた病んでいるという考え方が必要である。虐待という認識は「子どもと家族への援助」へのきっかけであって「加害者の告発」のためではない。子どもの安全と成長を保証することを最優先に対応する。

4. 予防

ネグレクトについて多くの人々に啓発することは予防の第一歩である。クリニック、病院、保健センターや幼稚園・保育園・学校などが広く連携し、子どもの状況を把握することが重要である。保健所やクリニックでの乳幼児健診や学校検診での気付きなどが大切である。出生前訪問や1か月、4か月健診などの早い時期からの気付きが虐待の予防につながる。厚生労働省は「乳児家庭全戸訪問事業」（こんにちは赤ちゃん事業）において、生後4か月までの乳児のいるすべての家庭を訪問し、支援が必要な家庭に対しては適切なサービス提供につなげようとしている。このようにして、乳幼児のいる家庭の孤立を防ぎ、乳児の健全な育成環境の確保を考えている。

また、厚生労働省はワンストップ相談窓口を有する「子育て世代包括支援センター」と呼ばれる妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を提供できる拠点の整備を2020年度末までに、子どもとその家庭に関するすべての相談・支援を行う「子ども家庭総合支援拠点」の整備を2022年度末までに全国展開しようとしている。このようなことがネグレクトの予防に繋がる。